

令和3年度 晃英館中学校・山口県桜ヶ丘高等学校普通科晃英館コース学校評価書

- 1 学校教育目標
 知・徳・体の調和がとれ、リーダーたる資質・能力を身につけた、国際社会に貢献できる人材の育成
- 2 前年度の評価・課題の概要
 (1) 難関大学現役合格者と国公立大学の合格者の増加
 (2) 入学者数の増加(中学入試改革)
 (3) 生徒一人一人を大切に教育
 (4) 多様性の尊重
- 3 本年度の重点目標
 (1) 難関大学現役合格者と国公立大学の合格者の増加
 (2) 入学者数の増加(中学入試改革)
 (3) 生徒一人一人を大切に教育
 (4) コロナ禍での教育の工夫

4 自己評価 達成できた…5 概ね達成できた…4 ある程度達成できた…3 達成が一部にとどまった…2 達成できなかった…1

評価領域	重点項目	具体的取組	評価	反省と課題
第1学年	1. 初志貫徹	①基本的なことを定着・習慣づける。 ②あきらめずに続けさせる。	4	諦めずに続けることができた生徒は、入学時より力がついてきている。
	2. 基本的な生活習慣の確立	①挨拶、言葉遣い、服装等の礼儀と身だしなみの指導。 ②毎日の生活ノートへの記入の徹底させ、忘れ物ゼロを習慣づける。 ③規則正しい生活習慣を身に付けさせる。	4	忘れ物や遅刻など自己管理ができない生徒が数名いた。
	3. 基本的な学習習慣の確立	①授業の受け方やノートの取り方における基本の指導。 ②PDCAサイクルをベースに、家庭学習の習慣を身に付け、次の学年につなげるための土台作り。 ③提出物の期限を守らせる。	3	家庭学習が身につけておらず、提出物の期限が守れない、または未提出の生徒がいる。
	4. 円滑な集団行動の確立	①学校行事を通して、集団での動き方を身に付ける。 ②道徳や総合の時間を使った、集団生活での社会性、積極性、協力などの豊かな心の育成を目指す。	3	集団での動き方が徐々にわかってきているが、まだ、自分中心のものとのらえ方をしている。
第2学年	1. 生活習慣の改善	①生活ノートへの記入の徹底。 ②職場体験や立志式、道徳などを通して、自己の意識や生活の改善。	4	自己意識や生活の改善が多く生徒で見られた。ただ、一部の生徒が中途半端なまま、これからも注視する必要がある。
	2. 学習習慣の改善	①基本的な学力の定着、効率的な学習の促進。 ②定期的な学習状況や提出物のチェック。	4	もともと勉強熱心な者が多かったが、その空気に影響される者が増えた。ただ、中1時の苦手意識を引きずっている傾向を打破する必要がある。
	3. 自主的・主体的な行動の育成	①道徳や行事を通して、積極的な参加を促し、自ら率先して行動に移す。 ②自らの言動に責任を持たせる。	2	コロナ関連で行事も少なく、クラス内でまとまって何かを行うということが、あまりできなかった。
	4. 進路意識の高揚	①職場体験を通じての働くことの意義や本質を理解させたうえで、現状の具体的な進路目標の設定。 ②立志式により目標を意識させ、実践を促す。	2	コロナにより職場体験は実施できず、働くことの意義や本質を直接学ぶ機会を失った。立志式は無事終えたが、将来に対する調べが足りていない。
第3学年	1. 自律する	①フォーサイトを活用し、計画的な生活を送らせる。 ②1日1時間以上の自主学習時間を確保させる。	2	フォーサイトの活用が全くできなかった。家庭学習の充実、徹底が必要。
	2. 学習内容の充実	①学校での自主学習時間を確保させる。 ②予習を中心とした学習スタイルを確立させる。 ③授業や課題を通じて、学力を定着させる。	4	スクールワークの導入により、学校での自主学習時間の確保ができた。予習の徹底が今後の課題。
	3. 自身の将来と真剣に向き合う	①LHRや道徳、総合を通じて、職業の知識を増やす。 ②なりたい自分の明確化、それに向けて努力させる。	5	定期的な面談により、進路についての話し合いの場を持った。
	4. 道徳心の醸成	①自己より他者を優先する姿勢を身に付けさせる。 ②道徳心の欠如により生じた社会問題を学ばせ	5	掃除は率先してよくやった。全般的に道徳心を高めることができた。
	5. ライバルを作る	①切磋琢磨できるライバルを見つけ、競争心を持たせる。 ②競争を通じて学力や人間性を向上させる。 ③全国順位も視野に入れ、向上心を持たせる。	5	クラスという狭い範囲ではあるが、周りと比べて高みを目指せるようになった。
第4学年	1. 学習習慣の改善	①授業での集中力、積極性の向上。 ②科目のわからない箇所の解消、解決に向けての行動。 ③確実に毎日行える勉強時間の確保。	3	高校の1年間で過ぎ、文理選択も終えたため、大学進学に向けて、勉強時間を確保させる必要がある。

	2. 生活習慣の改善	①授業と休み時間の切り替え。 ②休日の過ごし方、安定したリズムの構築。 ③落ち着いた言動。 ④他人に言われる前に自分で行動できるようにする。	2	昼夜逆転している生徒で、授業中居眠りする者も見受けられる。
	3. 大学進学に向けての文理選択	①大学訪問などの行事などからの職業選択。 ②文理選択による進路の明確化。	4	過半数はやりたいことが見えてきているが、やりたいことが決まっていない生徒は、勉強が疎かになっている。
	4. 自主的・主体的な行動の育成	①自ら率先して行動に移す。 ②自らの意思や判断で責任をもって行動に移す。	3	一部の生徒で勉強に対する主体性はできつつある。
第5学年	1. 大学に行く意義を考える	①志望理由書の作成。 ②将来の人生設計を考える。 ③オープンキャンパス、オンライン体験授業に参加。	5	志望理由表明の会を通して、志望校と将来について考えを深めることができた。
	2. 当たり前を当たり前に行う	①挨拶、清掃、身の回りの整頓を確実にに行わせる。 ②基礎学、宿題などをやらない生徒を見逃さない。	4	それぞれの目標と夢に応じて、生活面・学習面の両面で成長できた。
	3. 個人を尊重し、各自の目標を応援しあうクラスになる	①学力の違いはあれど、各自の目標を高々と上げられる雰囲気づくり。 ②生徒間のいざごをためないように、面談等を適宜行う。	5	それぞれの長所・短所を理解しあい、協調性のあるクラスとなることができた。
第6学年	1. 至誠通天 全てのことに誠実に取り組み、努力を惜しまなければ必ず願いはかなう	①目標に向けて必要な努力を最後まで惜しまないように、日ごろの努力の積み重ねの大切さをより促し、取り組ませる。	4	やっておけばよかったという反省が生徒の口から出ることから、努力が十分とはいえないまでも、やり切った感はあるようだ。
	2. 最上級生として自覚を持ち、品格ある行動をとる	①最上級生として模範的な行動がとれ、なおかつ後輩が上級生を見習って行動できるようにするため、普段の生活や態度で示せるよう促す。	4	最上級生として模範的な行動は概ねとれた。全体として後輩に示せる生活態度は保てた。
	3. 志望校の現役合格	①「受験は団体戦である」を合言葉に、受験に向けての意識を高め、個々の生徒の学力に応じて適切な個別指導を行う。	4	生徒の志望校に沿う指導はある程度達成できた。根本的、絶対的な学力が必要であるため、遅くとも中3からの積み重ねの大切さを後輩に示すことが必要。
教務部	1. 見英館としての教育活動の徹底	①学年あるいは学校に適した行事の配置を行い、適切に行事が運営できるようにする。 ②高校3年生は希望の進路を実現できるよう、その他の学年は進級、進学できるようにする。	3	総合学習発表会に関しては、高校の部で保護者の方々も参観できて成功裏に終わった。 行事全般としてはコロナ禍でもあり、予定通りできないことも多かった。
	2. 新たな教育課程の実施、準備	①2021年度から中学校の新教育課程の趣旨を先生方に理解していただく。 ②2022年度から始まる高校の新教育課程に関して、教科主任を中心に授業計画、授業準備を進めていただく。	3	中学校の教科書選定は完了。 高校は共通テストや大学の発表を待たねばならない現時点でも不透明。
	3. 評定の算出方法の見直し	①現在の生徒たちの実際の学力レベルと評定の間にみられる乖離を是正する。	2	来年度以降、高校での観点別評価の移行に伴う形で再度議論が必要。
	4. 公的機関への提出書類及び教科書発注等の業務を確実に実行	①最終的に主任が責任をもって業務を行うが、そこに至るまでに主任以外最低一人の手と目を入れ、漏れがないように業務を遂行する。	3	業務の遅れが可成り発生し、各方面に迷惑をかけた。
総務部	1. 学校関係行事の適切な運営	①学校関係行事の事前準備の徹底、適切な運営を行う。 ②行事ごとの改善。 ③各部、各先生方、生徒間での連携。 ④行事ごとへの積極的な取組。	3	行事直前で気づくことも多く、事前の確認が不十分だった。また、その結果、連携もうまく取れないことが多々あった。
	2. パソコンデータ管理の徹底	①データの保存、管理、バックアップ。 ②ICTとの連携。	2	ICTに任せきりになった業務が多くなった。
	3. 清掃・美化の徹底	①清掃指導を徹底。 ②清掃用具の管理(購入)。 ③清掃時の生徒への適切な指導。	4	大掃除等を使い、掃除に力を入れた。 箒のごみ取りやロッカーの整理は来年度の課題。
	4. 防災関係	①年間3回の避難訓練。	4	避難訓練前に説明を行い、意識付けをしっかりとることができた。桜ヶ丘高校との合同訓練は連携に課題あり。
進路指導部	1. 主体的な進路探究への準備(PDCAサイクルを意識した活動を進進する)(主に1～3年次)	①LHRにおいて大学・学部・学科や職業調べなどを通して、進路に対する興味を深め、目的意識を高める。 ②大学を訪問してキャンパスの雰囲気を感ずることによって主体的な進路探究ができるよう準備しておく。 ③すべての活動においてPDCAサイクルを意識させ、確立へ向けての準備をさせる。 ④キャリア・パスポートの効果的使用。	4	学校行事・進路行事が予定通り実施できていないこともあったが、全体として生徒のPDCAサイクルの確立に向けてキャリア・パスポートを効果的に活用できているとは現段階では言えない。ただ、進路指導目標・計画に基づいて各学級担任に振り返りと改善を年間を通じて実施してもらった。
	2. 進路実現に向けた主体的活動の実践(学習面・情報収集などすべての面における主体的活動)(高1・高2)	①大学受験前に自分がどういう学力レベルに到達したいのかよく考え、その実現のために高1・高2の時点において何をすべきかをよく考えて具体的な計画を立て、そして実践していくよう指導する。		学級担任が進める取り組みを学校全体で共有していかなければならない。そのためには、進路指導部のサポートが欠かせない。

		②PDCAサイクルを回し主体的な活動をする時期であることを認識させる。 ③ボランティア活動など自分が業績として残したいものは早めに計画を立て主体的に動くよう指導する。	3	
	3. 高3生全員の第1志望全員合格(生徒の進路実現に向けた教員の連携強化)(高3)	①模擬試験の結果を分析し、各分掌・各教科との連携を強化しながら、効果的な対策を考え、職員会議等を活用して全教員で共有し、生徒の進路実現を支援する。 ②推薦入試(特に学校推薦型選抜)に関しては全教員で丸となって推薦希望生徒を支える。	5	多くの教員が高3生にかかわり、受験勉強の支援ができたと評価している。また、推薦入試についても志望理由書・面接・小論文など教員で仕事を分担し、受験生の全面支援ができたと評価できる。
	4. 中学課程の基礎学力向上	①Z会アドバンス模試において明確になった基礎・基本力不足を解消すべく担任を中心として主要5教科教科担当が共通の目標をもって取り組む。 ②必要に応じて学年会議を開催し、課題・目標を共有し、定期的に振り返りをしながら、学力の向上につなげていく。 ③3学期Z会アドバンス模試において3教科学年偏差値が、昨年より大きく上昇することを目指す。	3	各学級担任によりクラス状況に応じた効果的な取り組みが行われた。進路指導部の方から学年の目標・取り組みについて、非常勤の先生を含めた全体を共有できるもう少しサポートできればよかった。 中学部進路指導リーダーを決めると効果的だった。
	5. 新学習指導要領(高校)に対応した大学入試情報の収集と分析	①来年度から実施される新学習指導要領に対応する大学入試に関する情報をいち早く、収集・分析し、全教員で共有できるように努める。 ②それらの情報をもとに新しい教育課程の作成にフィードバックしていく。	4	多くの生徒がこちらの進路指導に耳を傾けるも、実際は話し合いの結果とは異なる行動をとっていた。 推薦入試に関しては生徒との意思の疎通もうまくいき、予想以上の良い成果を収めることができた。
生徒指導部	1. 問題行動をゼロにする	①生徒の状況確認やアンケートを活用し、担任と連携を密にして迅速な対応を行い、問題解決を図る。 ②ネットパトロールを活用し、ネットによる問題行動の対策を行う。 ③携帯電話の講習会などを実施する。	4	ネット面でのトラブルがあまり上がってきていないので、その点をもう少し深く調査する必要がある。
	2. 生徒会の組織・運営	①生徒会と委員会が活動するにあたり、自主的かつ主体的に運営できるように指導を行う。	4	自主的かつ主体的な運営がなされている。今後はその伝統をしっかり守ることが必要である。
	3. 部活動への積極的参加	①部活動への加入者の増加と定着を図る。	3	部活動の実態がよくわかっていない部分に課題が残る。
	4. 自転車等による交通事故をゼロにする	①交通委員を通じて、自転車の施錠・交通安全の啓蒙等を行う。 ②交通安全教等を活用して、生徒の交通安全に対する意識を高めるとともに、マナーの向上を図る。	3	自転車同士の事故が1件報告あり。 自転車がいつ加害者となるかわからない点を重点に指導する必要。
	5. 精神面・行動面での成長を図る	①挨拶の励行。 ②正しい言葉遣いや行動、服装・頭髮の指導。 ③ボランティア活動、花の栽培等を通じて心の育成を図る。	4	不注意による遅刻は特定の生徒に集中している。 担任が家庭環境を踏まえたうえで、しっかりと指導する必要。
入試広報	1. 受験生40名以上 入学者30名以上	①HPやLINEなどを活用し、イベントへの参加者を増やしていく。 ②見英館にどのような生徒、教員がいるのか、目に見えるようにしていく。	2	激減。選ばれる学校になれるよう努力を重ねたい。
	2. 各説明会、オープンスクール等の円滑な運営	①ICTや進路部と連携して見英館の魅力が最大限伝わるような企画・運営を行う。	4	多くの行事を、先生方の協力の上行うことができた。
	3. 中高一貫校の魅力を地域に発信する	①講師の方をお招きして、講演をしていただく。	3	コロナによりR3年には行えなかったが、R4年の実施が決定した。
	4. 適切な入試制度、日程の選定	①推薦入試の有無を考える。 ②A日程とB日程の適切な時期を見極める。	3	推薦入試を行ったが、方法について課題が残る。
	5. 全教員、全生徒、保護者、OB、OG、地域の協力者による生徒募集	①ポスターやチラシの配布、イベントの宣伝を可能な限り多くの人に協力をいただく。	3	生徒を中心によく広報活動を行っていただいた。
ICT	1. 機器管理	①学校共用PCの管理。	5	機器管理はできているが、古いPCの更新を検討していかなければならない。
	2. 環境整備	①PC周辺機器の管理。 ②各教員への操作説明など。	4	ipadの支給により、ICTの活用の幅が広がったが、各教員にレベルの差がある。
	3. データ処理	①各部から提供されるデータの一括管理。 ②使用アプリ・ソフトの年度更新作業。	5	今のところ問題はないが、データのバックアップを行うためのHDDがふるくなっているため、更新の検討が必要。
	4. ホームページ管理	①学校行事の更新。 ②緊急時の連絡等の迅速な対応。 ③入試速報等。	4	総務との連携ができていなかったことから、行事の更新が遅れたため、他の部署との連携を密にしていきたい。
国際交流委員会	1. 2021年度国内語学研修(高1・高2 7日間)	①事前指導の徹底(放課後)。 ②保護者、代理店、教員の密な連携。 ③主体性、積極性、国際社会の一員として自覚の育成。	2	コロナウィルスのため、国内語学研修を計画したが中止となった。
	2. 2021年度国内語学研修	①事前指導の徹底(英会話の授業)。		コロナウィルスのため、国内語学研修を計画したが

	(中3 4日間)	②代理店、教員の密な連携。 ③主体性、積極性、国際社会の一員として自覚の育成。	2	中止となり、時期をずらして修学旅行に変更した。
	3.目的に沿った効果的な研修の立案と計画(2022年度)	①英語の運用能力を高め、与えられた課題に対して生徒が話し合い、協力を通じて問題を解決し、達成感の味わえる活動を考える。 ②学んだことや自分の考えを表現できるような機会を与えられるようにする。 ③研修に関する情報の収集をする。 ④2021年度の反省を生かす。	2	旅行業者と連携を取り、目的に沿った立案をしたが、希望者が最少催行人員を大きく下回った。生徒の参加したいという気持ちを盛り上げられなかった。
図書委員会	1.資料室の運営	①文化委員会を中心として本の貸し出し業務を行う。 ②貸し出し、返却帳簿を適切に運営する。	2	もっと生徒に活用されるような工夫が必要。
	2.学校図書の選定・購入	①本校の生徒の学習の助けとなる本の選定、購入を行う。 ②学期や季節ごとに企画コーナーを作り、本の紹介を行う。	2	選定・購入は行った。 コーナーの作成は全くできなかった。
	3.パソコンの導入	①2023年度の運用開始を目標として、パソコンを導入。 ②パソコンで業務が行えるよう、準備を進める。	2	パソコンは導入したが、本格的な稼働は全くなし。
	4.蔵書の整理	①2022年度終了時までにはすべてをデータ整理する。 ②蔵書のうち、残すものと破棄するものとを区別する。 ③破棄すべき蔵書の処理について検討する。	1	今年度末までに、できる目途も立たず。
	5.桜ヶ丘高校との連携	①桜ヶ丘高校の図書室業務の手伝いを委員がする ②見英館と桜ヶ丘高校の蔵書をまとめて整理する土台作り。	1	桜ヶ丘の教員と話をする機会さえ持たず。
教育相談	1.教育相談の行内体制の確立	①担任、生徒指導、養護教諭、スクールカウンセラーなどとの連絡・調整を図り、不適応生徒などへの対応が迅速かつ効果的に行われるような校内体制を確立。	1	関係部署との連携が困難であった。
	2.不適応生徒の援助	①担任、生徒指導、養護教諭、スクールカウンセラーと連携し、不適応を起こしている生徒の「不適応」の解決をめざす。	1	関係部署との連携が困難であった。
	3.不適応生徒の早期発見・早期対応による「不適応」の進行と発生の予防	①生徒指導と連携し、いじめアンケートなどの機会を通じて気がかりな生徒に関する情報収集や面談を行い、学校内で共有を図る。	1	関係部署との連携が困難であった。
	4.教育相談に必要なスキルの向上	①事例研究の実践。	1	関係部署との連携が困難であった。

5 学校関係者評価

- (1)保護者が参加できない学校行事の様子を、ホームページなどを利用して後日写真や映像で見られた。
- (2)放課後遅くまで自習教室を開けてもらえて助かった。
- (3)生徒間のトラブル(教室内・SNS)

6 学校評価総括

- (1)ICTで中学生1人1人にタブレットを持たせたが、コロナ禍での家庭学習のオンライン授業や総合の発表準備に役立った。
- (2)個別指導や面接、小論文指導など多くの人間関わったことで、東大・名古屋大・山口大医学部3名が合格を果たすなど、成果を上げた。
- (3)働き方改革や土曜の半日休暇などの影響で全員がそろう時間が限られ、会議などの開催に苦労した。
- (4)入学人数については、プレテストや推薦入試など新しい取り組みを導入したが、入学辞退者が増えるなど、激減した。
- (5)常勤教員に退職者が出て、求人難から員数合わせになり、教員の質が保てない。
- (6)コロナの影響で学校行事が縮小される中、生徒会が積極的に活動し、コロナ対策を考えた内容を企画してくれた。

7 次年度への改善項目

- (1)入学人数増加のための効果的な募集活動の検討(野田・慶進との合同学校説明会・入試広報専属教員の配置)
- (2)ICTを有効活用した日常の授業の工夫。
- (3)生徒一人一人に寄り添った指導(教科・進路・生活)、放課後自習室の確保・カウンセラーの確保。
- (4)土曜の振り替え半休を午前中に設定し、午後からの会議の時間、生徒の質問時間を確保する。
- (5)新入試や新学習指導要領に対応した授業内容の精選。